

令和 6 年度塩竈市水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

イ. 給水状況

本年度の年間総配水量は、大倉ダム水系 5,835,517 m³及び仙南・仙塩広域水道用水供給事業からの受水量 1,022,016 m³の合計 6,857,533 m³（18,788 m³/日）で、前年度 7,340,098 m³（20,055 m³/日）に比較して 482,565 m³（1,267 m³/日）・6.57%減少しました。また、一日最大配水量は 21,150 m³（6月14日）で、前年度 22,152 m³に比較して 1,002 m³・4.52%減少しました。

年間有収水量は、5,993,032 m³（16,419 m³/日）で、前年度 6,015,174 m³（16,435 m³/日）に比較して 22,142 m³（16 m³/日）・0.37%減少しました。

年度末における使用栓数は 26,445 栓で、前年度 26,368 栓と比較して 77 栓増加し、有収率は 87.39%で、前年度 81.95%に比較して 5.44 ポイントの増となりました。

ロ. 建設改良の状況

○ 改良事業

主な改良工事として、花立町地内で口径 100mm、延長 12.5mの配水管移設工事を施工しました。

また、水道工事において水の供給を止めずに給水管を取り付けるための工具として、電動式不断水穿孔機を購入しました。

なお、令和 5 年度から 7 年度までの仙台市との共同浄水場関連施設基本設計に係る負担金が発生しています。

○ 第 7 次配水管整備事業

本事業は、ライフラインの強化と濁水発生箇所解消及び有収率の向上と重要路線の耐震化を目的に、水道の安定供給を図るものです。実施期間は令和元年度から令和 7 年度までの 7 か年計画とし、給水区域内の布設後 40 年以上経過した配水管の布設替えを実施する事業です。

本年度は、泉沢町、錦町、芦畔町、中の島の 4 路線で口径 50～150mm、総延長 650.3mの配水管布設工事を行いました。また、栄町地内で舗装復旧工事を行いました。

○ 第 2 次老朽管更新事業

本事業は、国の生活基盤施設耐震化等補助金を活用し、ライフラインの強化と管路の耐震化を目的に、令和元年度から令和 7 年度までの年次計画で給水区域内の布設後 40 年以上経過した送配水管の布設替えを行い、安定供給を図る事業です。

本年度は、清水沢 1 路線で口径 600 mm、延長 305.4mの送水管布設替工事を行いました。

ハ. 財政状況 * () 内は税込決算数値

収益的収入は、1,507,983,467 円 (1,648,499,268 円) で、前年度の 1,512,991,655 円 (1,653,345,605 円) に比較して 5,008,188 円 (0.33%) 減収となりました。

収益的支出は、1,441,441,884 円 (1,553,827,767 円) で、前年度の 1,393,960,140 円 (1,495,146,857 円) に比較して 47,481,744 円 (3.41%) 増加しました。これは、営業外費用で 3,608,762 円、特別損失で 334,835 円減少したものの、営業費用で 51,425,341 円 増加したことによるものです。

これらの結果、66,541,583 円の純利益を生じ利益剰余金は 2,056,149,566 円となりました。

資本的収支は、総収入 288,860,515 円 (うち仮受消費税 48,000 円) に対し、総支出 708,675,359 円 (うち仮払消費税 28,445,118 円) となり、収入不足額 419,814,844 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 28,397,118 円、当年度分損益勘定留保資金 391,417,726 円で補てんしました。

二. 経営指標に関する事項

令和 6 年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、有収水量の減少に伴う給水収益の減収及び水管橋・配水池塗装工事などに伴う費用の増加により前年度比 3.71 ポイント減となりましたが 104.56% で、健全経営の水準である 100% を上回っています。

一方、料金水準の妥当性を示す料金回収率は、前年度比 3.58 ポイント減の 97.59% となりました。これは建設改良工事の増に伴い減価償却費が大きく増加したことが要因です。

償却対象資産の減価償却の状況を示す有形固定資産減価償却率は、前年度比 1.63 ポイント増の 51.92% となり、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を示す管路経年化率は、前年度比 1.7 ポイント増の 43.44% となりました。

また、当該年度に更新した管路延長の割合を示す管路更新率は、前年度比 0.03 ポイント減の 0.28% と減少しています。これは、老朽化した大口径の基幹管路の更新を優先的に実施していることによるものであり、年間の更新延長が伸びなかったためです。

今後とも、「安全」「強靱」のために計画的な施設更新に努めるとともに、健全な経営状況を「持続」します。

- ・経常収支比率 : 経営の健全性を示す指標
- ・料金回収率 : 給水に係る費用がどの程度水道料金で賄えているかを示す指標
- ・有形固定資産減価償却率 : 有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標
- ・管路経年化率 : 法定耐用年数を超えた管路の割合を示す指標
- ・管路更新率 : 当該年度に更新した管路延長を示す指標

<経営指標の推移>

	R2	R3	R4	R5	R6
経常収支比率	124.94%	124.07%	110.74%	108.27%	104.56%
料金回収率	116.93%	118.50%	104.50%	101.17%	97.59%
有形固定資産減価償却率	52.23%	47.68%	49.48%	50.29%	51.92%
管路経年化率	37.09%	38.74%	40.48%	41.72%	43.44%
管路更新率	1.07%	0.78%	0.41%	0.31%	0.28%

